

人間と生活・社会の理解

基礎分野

授業科目	医療人類学	講師	氏名	徳安 祐子	開講年次	3年次 前期	単位・時間	1単位 20時間
			所属	大学				
			実務経験	学術研究員				
科目のねらい	本科目では、異なる家族や宗教などを通して異文化を知り、その背後にある論理や価値観・社会や文化の理解を深め、グローバルな視点で世界の国々の文化や伝統を知る。また、文化の違いによって異なる病気・生に対する考え方を理解し看護観に関連させる。							
到達目標								
知識・技術	1. 世界の国々の文化や伝統を理解し説明できる。 2. 健康や病気に対する様々な考え方があり、述べる事ができる。 3. 近年の医療についての変遷を知り、説明できる。							
思考 判断・表現	1. 日本と他国との文化の違いと病の背景について調べ、発表できる。 2. 文化の違いによる生と死の考え方を踏まえ、自己の死生観をレポートできる。 3. 国際的な健康課題の現状や取り組みについて考えることができる。							
主体的学習 態度	1. 異文化について知ることで、文化の違いと医療の違いに気づくことができる。 2. 医療と文化・社会生活において関連付けることができる。 3. 日本との文化の違いを踏まえ、グローバルな視点で文化と医療について探求できる。							
科目評価	グループワーク・課題・レポート100%							
テキスト								
参考文献								
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	健康の意味と文化	○			徳安 祐子	文化人類学 多言語コミュニケーション 医療現場でのコミュニケーション 国際看護 災害看護 公衆衛生 社会福祉 倫理学 教育学 家族看護学 看護倫理	課題① 「諸外国の文化の違い」を第1回講義前にレポート提出とする。 3回目の講義ではテーマに沿ってグループワークを行う。 課題② 「死生観について」	
2	医療と文化	○						
3	グローバル社会における医療の実際	○						
4	グループワーク・発表 (グローバル社会における医療の実際)			○				
5	2・地域特有の病（世界と日本の病の違い） 3・異文化の「生と死」	○						
6		○						
7		○						
8	グループワーク・発表（地域特有の病異文化の「生と死」）	○						
9		○						
10	まとめ及び 国際看護への課題（発表）			○				